

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2272100161		
法人名	有限会社ハートフルケア		
事業所名	グループホームゆずの家1号館(1号館 2号館)		
所在地	富士宮市大岩493-13		
自己評価作成日	平成26年8月18日	評価結果市町村受理日	平成26年11月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.jp/22/index.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kani=true&amp;JigyosoCd=2272100161-00&amp;PrefCd=22&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.jp/22/index.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kani=true&amp;JigyosoCd=2272100161-00&amp;PrefCd=22&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	株式会社第三者評価機構
所在地	静岡県葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A
訪問調査日	平成26年8月29日

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者様と相互の関係づくりを管理者、職員一同念頭におき、日々仕事をさせて頂いています。</li> <li>・地域の行事に積極的に参加させていただいたり、施設のレク、イベントにも地域住民の方々に日頃から協力を得ている。</li> <li>・富士宮市内の小学校、中学校、高校等体験学習や実習の受け入れをし、福祉体験をして頂いている。</li> <li>・季節の野菜をふんだんに使い栄養のある、バランスとれた食事を提供している。</li> </ul>
--

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

<p>開設以来脈々と受け継がれる法人代表の信念は、事業所と地域双方がもてる力を発揮して支え合う盤石の体制となって花開いています。運営推進会議で古布回収を希望すればすぐに周知されて集まる関心の高さ、流しそめんの竹や器準備から大工ボランティアに至るまで理解ある地域リーダーの力添えがあり、他方でキャラバンメイトとしての活動は自らの持つ専門性と実践力を活かし、独居高齢者への見守りや声かけに反映されています。区民館での高齢者学級に参加する利用者の凛とした表情は社会との繋がりの重要さを教示し、真摯に向き合う職員の「ゆず愛」が光ります。</p>
--

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設内に運営理念と運営方針を掲げている。施設内研修、新人研修、職員会議等理念の理解啓発に努めている。地域密着型の役割を理解したうえで、入居者様が住みなれた地域で安心した生活が送れる様支援してまいります。	日々の仕事で忘れがちなため職員会議で「ゆったりしてる?」「その人らしくしてる?」と問いかけ、主任会議では同じ方向性であるか振り返っています。目と目で話し合う穏やかな笑顔には理念の実践が覗えます。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	夏祭りには近所の方も参加して頂いている。地区のお祭りや文化祭、高齢者学級、等招待頂いている。又地域の中学校や高校生の体験実習の受け入れもやっている。	ウエスや洋服の寄付、流しそうめんの竹や器の準備、修理ボランティアと事業所への惜しみない協力があります。少数でも依頼があればキャラバンメイトとして出向き在宅介護の苦労話に耳を傾けています。	事業所と地域の人々双方向が支え合う関係が豊かなため、継続されるよう働きかけを期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	キャラバンメイトの資格をもつ職員がいる為認知症の理解や認知症の方の対応など寄り合い処や公民館へ行き認知症養成講座をひらいている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議ではサービスの実際や評価への取り組み状況について報告してきた。ご家族行政職員、区長さんからの意見、助言を頂き、その情報を管理会議やリーダー会議で話し合いサービスの向上にも活かした。	地域福祉に熱心な住民代表から毎回多くの情報提供があります。事業所から協力をお願いしたいことはすぐに回覧板で周知され、地域での困りごとや素朴な質問が行政に直接届く場となっています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	行政は推進会議、包括は部会で情報交換を行なっている。又事業者連絡会を通して連携をとり、協力関係を築けるように努めている。	運営推進会議では市民福祉を推進する最前線の立場として、住民代表からの質問に誠意ある回答がもらえ意義深い会議となっています。地域包括支援センターからの依頼でキャラバンメイトとして活動しています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員は外部研修へ行きどのような事が身体拘束なのか学び、その職員が職員会議でリスクマネジメントにフィードバックせゆずの家の考え方を共有し、身体拘束をしないケアに努めている。拘束ゼロ宣言もしている。	相手の気持ちをどれだけ尊重できるかが拘束のないケアに繋がるとの共通認識をもっています。外出は引き止めることを優先せず、静かに同行しています。帰りたいのか、何かを探しているのか目的を探して想いに寄り添っています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ゆずの家の認知症介護を学んでもらい、日頃から利用者様との相互の関係作りを管理者が呼びかけている。ドラックロックや、スピーチロックについてもカンファレンスや、職員会議で話し合い防止策に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護や成年後見制度は管理者が研修へ行き学んできている。成年後見制度については、現入居者に対する制度の必要性の有無を包括、行政と話あっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、重要事項説明書を口頭で補足しながら説明している。説明後疑問点はないか確認し、後に「解らない事があれば、いつでも気軽に御質問下さい」とお伝えしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議にてご家族代表の意見要望を伺い面会時にコミュニケーションを保ち話しやすい雰囲気づくりに努めている。要望意見は謙虚に受け止め運営に反映していく姿勢でいる。利用者様の要望も日頃から傾聴し、実行出来るよう努力している。	運営推進会議には利用者と、毎回輪番で代表家族の出席があり、ゆずの家での長い生活で「腹を割って話せる、関係ができています。「行事には声をかけてほしい」との希望も自然に挙がり、外食にも招いています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月職員会議を開催し、職員からでた意見や提案は管理者会議で検討し、反映するように努めている。	半年ごとに個人面談を行っています。年に一度恒例だった温泉旅行を、若い職員の意見を取り入れさくらんぼ狩りに変更しました。企画を任されてやり遂げた喜びは、その後の積極性に発展しています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表は働きやすい環境作りや、給料アップ、資格取得支援、福利厚生に努めている。管理者は職員に自己評価をしてもらい、個人面談を開き職員の話や意見を聞き、改めて管理者会議で検討し、反映している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の能力や経験に応じて、管理者は研修の内容を決め、職員が勤務内で研修が受けられる様支援している、働きながら専門職の資格が取れる様、研修費や受講料など支援している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	富士宮GH部会で他施設と合同研修会、運動会、事例検討会、新年会と、交流の機会をつくっている。又他施設との交換実習を行い、学ぶ機会を計画した。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所時に本人の困っている事、不安な事等聞き取りを行い、職員間で共有し、同じケアが出来るよう話し合い、不安軽減に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の困っている事、不安な事、対応の希望等入所時に聞き取りを行い、受け止めるように努力している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談をうけた時に管理者が利用者にとってグループホームでの生活が適切か、緊急をようするのか、他施設への支援が適切か見極めるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	カンファレンスにおいて利用者様の尊厳や自己決定など、深く話しあい、相互の関係を築き、寄り添うケアに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	一年を通して、お花見、温泉旅行、秋まつり、運動会、等ご家族にも参加して頂き、一緒に楽しまれています。2ヶ月に1回必ず新聞をだし、利用者様の近況報告をしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	自由に面会ができ、友人、親戚の方、元暮らしていた家の近隣の方など訪ねてきて下さっています。お墓参りや、お友達のお家等馴染みの場所との関係が途切れない様に努めている。	家族に髪をカットをしてもらったり、毎月のお墓参りには心をこめて墓石を磨く人もいます。編み物好きな人は文化祭の作品作りに精を出し、年6回開かれる地域の高齢者学級で仲間に会う機会もあります。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様一人一人の個性を把握し、生活において洗濯畳み、食事づくり、レクへの参加など共同作業の支援を行うことで、自然と利用者様同士が助け合う心遣いがうまれている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も野菜を提供して下さったり、相談のお電話頂いたり、しています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様の望みや意向は日々の情報提供を共有する事でその人らしい生活が出来る様努めている。意思疎通が困難な方も表情や言葉の表現から、心を読み取り支援につなげている。	センター方式『私の姿と気持ち』『できることできないこと』シートには担当職員による詳細な情報収集があり、寝たきりになっても丁寧で変わらない声かけは、願いや要望を受け止めようとする姿勢が表れています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の生活歴や家族状況など本人に関する情報は入居時や面会時に家族や本人に確認したり、日常的な会話の中から拾いあげたりして、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケアプランの作成時立てた目標、サービスプランを日々の経過記録として活用し、変化のあった事にかんしては、申し送りノートに記録し、全員が目を通すようにサインしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画は毎月の職員会議の時にカンファレンスを行い職員全員で話しあっている。家族の協力や承諾は面会時プランを読み、伝える事で意志の確認やホーム側の意向を伝えて計画に反映している。	第1表には正直に本人の言葉を添えプラン作成後は家族に来所をお願いして課題を見極めていきます。プランと共に情報シートも見直し状況に応じた具体的な声かけや対応が記載され標準化に結びついています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の生活状況を個別に記録している。重要な変更事項や状況の変化は申し送りノートで伝え、素早く情報が共有できるようにし、職員が交代しても適切なケアが継続して行なえるよう工夫している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個人的な買い物や病院受診支援、外食サービス、認定更新の代行申請、自宅への帰宅等の移送サービスなど無料で提供している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ゆずの家のお祭りに民生委員の方、地域住民のボランティアさんの協力や参加、地域の寄り合い処や高齢者学級への参加もさせて頂いている。防災訓練も管轄の消防署の隊員や近隣住民の協力のもと行った。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人の病状や家族の希望、本人の希望を考慮しながら、かかりつけ医を決めている。特別本人、ご家族の希望がなければ協力医療機関と連携し、月3回の訪問診療を受信し、緊急時も主治医の指示のもと速やかな、対応を心がけている。	ほとんどが協力医に変更し整形や皮膚科といった専門医はかかりつけ医を継続しています。日頃の様子や状態変化を明確に伝えるため受診の付き添いは職員が行っています。結果は折り返し家族に伝えていきます。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	当ホームでは代表が看護師で非常勤の看護師もいる為、日常の健康管理や、職員の医療的な支援の指示を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	可能な限り早期退院出来るように医療関係者に情報提供し、家族と相談しながら、最良の方法を選択している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	長期的な食事摂取量の低下や誤嚥性の肺炎などを繰り返すケース、癌の末期、老衰など本人、家族と主治医、管理者、ホームの看護師で終末期のあり方について、話し合い、全員で方針を共有している。	統一された方針のもと看取りに取り組んでいます。この2年3件の実績があり、命が終わる時の厳かな気持ちと教えてもらったことへの感謝の気持ちが職員の成長になりました。また、経験の浅い職員には精神的なフォローを慎重に行っています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	毎年消防署の協力により、通報訓練、消火器の使い方、避難訓練をしている。三角巾を使用した応急手当は、施設の看護師が指導を行っている。誤嚥や窒息時の対応についても看護師が指導している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地震災害時の訓練は毎年9月に行っている。炊き出し訓練、応急処置の訓練も行っている。倉庫に飲料水や食料の備蓄をしている。火災訓練も11月に夜間想定で行い、近隣の住民の協力を得て行った。	発災時は避難先へ向かず事業所で待機し、看護師在中で応急手当も可能なため近隣からの受け入れ態勢を整えています。震災ボランティアの経験がある人から避難生活を想定した炊き出し方法を学んでいます。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様の尊重や、尊厳は常日頃から申し送り時やカンファレンスの時に話あっている。プライバシーに関しても施設内で排泄、入浴、食事介助中など気をつける様心がけている。	外部研修や各地で講師を務める代表が内部研修を行い、新人職員でも先輩の所作から学べる環境にあります。利用者の混乱した行動を制することなくそっと寄り添って安心の声かけをしている姿を視認しました。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者様が日常生活において自己決定しやすい環境作りをしている。外食、外出、買い物等要望に耳を傾け、出来るだけ実行出来るよう努力し、訴えを言えない利用者様に対しても、寄り添い気持ちを汲み取り、自己決定できるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様のペースでゆっくりとした生活を送って頂いている、無理強いせず、行動に対しては見守りと寄り添い、発言に対しては傾聴し、個別の希望に添った支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出時はお化粧をし、おしゃれをして出かれます。職員の美容師がカットや毛染めを無料で提供し、大変喜ばれています。男性の利用者様も毎日髭剃りを行い、身だしなみには気をつけている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備は一緒に行うように心がけ、皆で楽しく、美味しく食べている。イベントで花見やお庭でのバイキング、外食など食べる事の楽しみに、重点をおいている。後方付けも一緒に行っている。	“見て楽しむ、作って楽しむ、という通り慣れた手つきで包丁を握り、額に汗して収穫した野菜が豊かに並ぶテーブルは食を慈しむ心に溢れています。誕生日には家族が来所して、一緒に食事を摂っています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食、主菜、副菜のバランスを考え利用者様の嗜好も取り入れた食事が提供出来る様努力しています。食事量や形態は個々の状況に合わせ、提供しています。水分補給も日常的にして頂ける様準備をしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後歯磨きを支援してしている。義歯の洗浄やポリデントの使用も職員介助で行なっている。口内炎や歯肉炎がないかも時々チェックしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握する事でトイレへの誘導を行っている。重度の方でもトイレでの排泄が出来る様支援している。	入居時にリハパンだった人も日中はトイレを利用することが習慣となり、綿パンツに移行して夜間のみパッドを使う人が増えていきます。一人ひとりの排泄のサインを把握してさりげなく誘導しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便状況をチェックし、便秘傾向の方にはDr指示のもと整腸剤の調整をしている。食事でも繊維質の多い野菜の摂取や牛乳やヨーグルトなど提供している。運動不足にならない様お散歩にも心がけています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は毎日入れる環境になっています。入浴時間も出来る限り本人の希望を聞く様にしていきます。入浴拒否の方にも無理強いをせず、タイミングをみて声かけをしたり、足浴を行なっています。全介助の方のみ、午前中に余裕をもち安全に入浴しています	「毎日入りたい」「一番湯に入りたい」といった要望に応じています。女性には入浴後のマッサージや乳液が喜ばれており、座位が取れる限りはゆっくり浴槽に浸かってもらいたい心地よさで歌が飛び出す人もいます。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様の生活習慣に合わせて、就寝時間を決めず、眠くなったら、入床して頂いています。お昼寝も自由にして頂いています。入床前は職員が談話の時間をもち、穏やかな安心した気持ちになれる様心がけています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋はいつでも確認出来る様個別にファイルしてあります。一人一人の使用されている薬もカンファレンスの時に職員に伝え重要性も確認しあっている。状態の悪化で抗生剤が必要な時はDrの指示のもと調整します。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日のお掃除、洗濯物干し、宣み等の役割があり、張り合いをもって生活している。畑仕事の好きな方には、種まきから収穫までを行なってもらっている。運動の好きな方には、毎日デイサービスへ体操に行ってもらっています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望や能力に応じて買い物、ドライブ、お墓参りなど支援している。地区の文化祭やお祭り地域の様々なイベントへ地域の方の協力を得て出かけられるよう支援しています。	食材の買い出しやお弁当持参の花見に加え、馴染みの床屋、家族との外食、湯治に通った温泉までの電車旅には思い出のエピソードが詰まっています。家族とのさくらんぼ狩りはじめ、毎年大型バスを貸し切って旅行を計画しています。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人管理でお財布を持っている方は現在いません。買い物へ行く時は職員同行し、職員が支払いをしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を希望される方には自由にして頂いています。手紙のやりとりも遠方の兄弟や、親類とされている方がいます。その方には便箋や封筒を準備し、いつでも書ける状態にしています。送る時は一緒に日頃の写真も同封させて頂いています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下や階段には夜電気をおとしても、人を感知して点灯する照明器具を使用している。リビング、食堂には季節の花を飾るよう心がけ、リラックスできる空間を作っている。外出時やイベント時に撮った写真をリビングに掲示し、利用者様ご家族様がいつでも見られる様にしている。	畑仕事に慣れ親しんだ人のために、芝生だった庭を家庭菜園に造成し、トマトやピーマン、ゴーヤのグリーンカーテンが植えられています。使用頻度が少ない掘り炬燵はくつろぎの和室とし、車椅子利用者と共生する安全なスペース作りに配慮しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間には利用者同士の人間関係に配慮した居場所の提供を職員が仲介しながら支援している。テレビを観たり、職員のお手伝いをしたり、新聞をよんだり、談話されたり、思い思いの時間が過ごせる様心がけている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使っていた古いタンスや鏡言を持つてきて頂いたり、アルバムを持参したり、直筆の掛け軸や染物等、本人が安心し、居心地の良い工夫をしている、又テレビを自室に置かれ、好きな番組を楽しまれている利用者もいる。	大家族が暮らす住宅のような造りは、それぞれの居室のプライバシーを守りつつ隣室にいる人の温かみを感じられます。筆筒や小物、住み慣れた自宅の部屋がそのまま移ってきたような居心地よい居室を確認しました。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自分の部屋がわかるように、各部屋に名前を貼っている。掃除道具、畑仕事用の道具等置き場を決め、自分で出せるようにしている。下駄箱にも名前をはり、自由に出し入れできる様にしている。		